

女性の 「働く」を考える

— 生活基盤としての仕事を支えるために —



2025 年

12/20

(土) 13:00 – 15:35
(12:30 開場)

於 日本女子大学 (目白キャンパス)
新泉山館 大会議室 (1F)

ZOOM ウェビナー同時開催

参加費
無料

事前予約制

申し込み方法

QR コード (Forms) もしくはメールよりお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/zwDKS2b1d3>

申し込み〆切 12月15日 (月)

※メールでのお申し込みの場合、
件名「シンポジウム申し込み」、氏名、連絡先をご明記ください。
宛先: riwac@fc.jwu.ac.jp



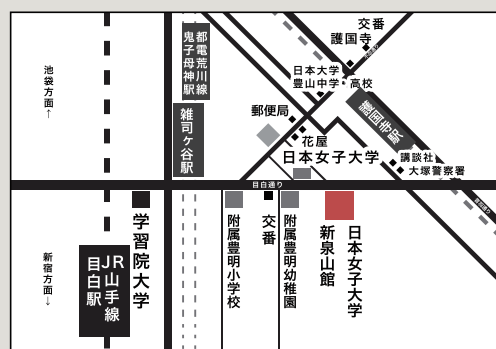
主催・お問い合わせ先
日本女子大学 現代女性キャリア研究所
Email: riwac@fc.jwu.ac.jp

アクセス

JR 山手線 目白駅 (バス 5 分・徒歩 18 分)

副都心線 雑司が谷駅 (徒歩 8 分)

有楽町線 護国寺駅 (徒歩 10 分)



プログラム

13:00 ～ 13:05 開会の挨拶 坂本 清恵（日本女子大学 副学長）

13:05 ～ 13:20 趣旨説明 永井 暁子（日本女子大学現代女性キャリア研究所 所長）

第一部 講演

13:20 ～ 13:45 女性の老後生活は誰が保障するのか 中尾 友紀（社会福祉学科 教授）

13:45 ～ 14:10 母親の就業と保育サービス 中山 真緒（家政経済学科 講師）

14:10 ～ 14:35 公的職業訓練とシングルマザーの所得変化 周 燕飛（現代社会学科 教授）

14:35 ～ 14:45 <休憩：10 分間>

第二部 全体討論

14:45 ～ 15:30 全体討論

15:30 ～ 15:35 閉会の挨拶 永井 暁子（日本女子大学現代女性キャリア研究所 所長）

登壇者プロフィール



中尾 友紀

日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授。博士（社会福祉学）。日本の公的年金の政策史を研究。特に創設時の制度設計から公的年金に付与された役割等を分析している。最近の主な業績に、「遺族厚生年金の支給要件にある男女差」『週刊社会保障』78（3257）、pp.48-53、「厚生年金保険適用対象の制度設計」『週刊社会保障』75（3138）、pp.42-47 などがある。



中山 真緒

日本女子大学家政学部家政経済学科講師。専門は労働経済学。特に女性の就業決定や家族政策に関する実証分析を行っている。著書に『日本女性のライフコース：平成・令和期の「変化」と「不変」』（共編著、慶應義塾大学出版会、2023年）。主要論文に“The impact of childcare on maternal employment”（共著、Pacific Economic Review、2024年）、「男性配偶者の業種別育児休業取得率が女性の就業確率・健康状態に与える影響」（共著、『日本労働研究雑誌』、2023年）など。



周 燕飛

国立社会保障・人口問題研究所客員研究員、（独）労働政策研究・研修機構主任研究員などを経て、2021年より日本女子大学人間社会学部教授。大阪大学国際公共政策博士。労働経済学、社会保障論専攻。著書に『母子世帯のワークライフと経済的自立』（JILPT研究双書）、『貧困専業主婦』（新潮社）など。2021～22年度社会保障審議会児童部会臨時委員。



永井 暁子

公益財団法人家計経済研究所次席研究員、東京大学社会科学研究所助教授を経て、日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所所長。佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編『結婚の壁』（勁草書房）、「家事と仕事をめぐる夫婦の関係」『日本労働研究雑誌』No.719、(2020年) など。

